

ナシ新品種「あきづき」の予備枝を利用した花芽確保

[要約] 花芽の着生が不良なナシ「あきづき」では、長さ 150cm程度の予備枝を利用して、先端新梢以外は摘芯処理して発育枝数を減少させ、短果枝と先端新梢にえき花芽を着生させる。

茨城県農業総合センター園芸研究所

成果
区分

指導

1. 背景・ねらい

果樹研究所で育成されたナシ新品種「あきづき」は9月中旬～10月上旬に収穫となる食味良好な赤ナシで、2003年までみつ症の発生は確認されていない。年次によりみつ症が多発する「豊水」や果実品質(特に硬さと肉質のザラツキ)に難のある「新高」にかえて普及が期待される。「あきづき」は花芽の着生が不良な品種であるため、予備枝を利用した花芽確保について検討する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 短果枝着生を主目的とする長さ 150cm程度の予備枝は、「幸水」で利用されているえき花芽着生を目的とする長さ40～50cm程度の予備枝よりも短果枝数が多く、先端新梢の花芽数が多くなる(表1)。
- 2) 長さ40～50cm程度の予備枝を利用して7月に誘引処理(先端新梢が45度になるように誘引)すると先端新梢の花芽数が無処理区よりも多くなるが、花芽数は誘引しても5～6個程度である(表2)。
- 3) 短果枝着生を主目的とする長さ 150cm程度の予備枝は、6月上旬頃に摘芯処理(摘芯方法は図1を参照)すると、発育枝数が無処理区よりも少なくなる(表3)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 短果枝着生を主目的とする長さ 150cm程度の予備枝を側枝として利用する場合には、短果枝と先端新梢のえき花芽の両方を利用する。果実肥大はえき花芽よりも短果枝が良いが、着果数を確保するために両方を利用する。
- 2) 長さ 150cm程度の予備枝は冬季に30～45度程度に誘引し、生育期間中は先端の新梢以外は随時摘芯する。
- 3) 長さ 150cm程度の予備枝を利用する場合には、主枝・亜主枝の先端部を高く配置する。
- 4) えき花芽着生を目的とする長さ40～50cm程度の予備枝は、7月上旬頃に必ず先端新梢が45度程度になるように誘引する。しかし、花芽数は誘引しても5～6個程度で十分確保できない。

4. 具体的データ

表1 予備枝長の違いが花芽着生に及ぼす影響

年	処理区	予備枝 長(cm)	予備枝 径(mm)	枝径の 増加量(mm)	短果 枝数	先端新梢		
						長さ(cm)	花芽数	花芽率(%)
2002	150cm	149	18.0	5.1	15.0	61	12.5	65.8
	40~50cm	39	11.4	4.7	2.6	106	3.0	12.7
	t検定	***	**	n.s	***	***	***	***
2003	150cm	143	14.5	7.5	10.4	70	6.9	34.2
	40~50cm	49	9.6	5.3	2.5	83	4.4	19.3
	t検定	***	***	***	***	*	*	**

注1) 2002年は1区当たり30本、2003年は1区当たり50本を供試した。

注2) 予備枝径は4月の測定値。枝径の増加量は12月の測定値-4月の測定値。

注3) t検定は△:10%、*:5%、**:1%、***:0.1%で有意。n.s:有意差なし。

表2 7月の予備枝誘引が花芽着生に及ぼす影響

年	処理区	予備枝 長(cm)	予備枝 径(mm)	枝径の 増加量(mm)	短果 枝数	先端新梢		
						長さ(cm)	花芽数	花芽率(%)
2002	誘引	40	11.3	3.5	3.7	96	5.0	21.6
	無処理	37	11.5	5.8	1.5	115	1.0	3.7
	t検定	n.s	n.s	△	n.s	n.s	*	*
2003	誘引	53	10.0	5.1	2.6	84	6.4	27.0
	無処理	45	9.1	5.5	2.3	82	2.3	10.7
	t検定	n.s	n.s	n.s	n.s	n.s	*	*

注1) 2002年は7月17日、2003年は7月3日に先端新梢が45度になるように誘引した。

注2) 2002年は1区当たり15本、2003年は1区当たり25本を供試した。

注3) 予備枝径、枝径の増加量およびt検定は表1の注2~3を参照

表3 摘芯処理が長い予備枝の花芽着生に及ぼす影響(2003年)

処理区	予備枝 長(cm)	予備枝 径(mm)	増加量 (mm)	芽数(個)			
				花芽	葉芽	發育枝	枯死
摘芯	148	15.8	7.3	9.9	13.0	4.3	2.9
無処理	136	16.2	7.8	8.6	13.1	8.4	1.4
t検定	n.s	n.s	n.s	n.s	n.s	*	n.s

注1) 摘芯は6月10日に実施し、1区当たり40本を供試した。

注2) 予備枝径、枝径の増加量およびt検定は

表1の注2~3を参照



図1 摘芯方法

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

ナシ晩生新品種の高品質生産技術の開発・平成14~15年度・果樹研究室